



研究所だより



第114号 令和元年10月

自分のほめ方を振り返って

草津市教育委員会事務局
児童生徒支援課長 成田 陽子

令和の4改革「教え方改革」や「草津市学力向上策」の中に「ほめ方・認め方」が位置付けられています。これを機会に今までの自分のほめ方を振り返ってみると、私自身、気恥ずかしさが先に立って、ほめるのは得意ではなかったなあと思います。どちらかというと特別活動などで路線を設け、その上に子どもたちを乗せ、達成したらほめることを主にしてきたなど。それはそれで子どもに達成感もあり、互いに成長を喜び合えたし、大人になったときに出会ったら、思い出話の中にその時の話はよく出てきます。




注意することや「しっかりしいや」と励ますことの多かった私ですが、「訪宅の精神」に出会い、自分では変わったと感じています。「その子の背景をよく知り、その子をよく見て、支援・指導に活かしていくこと」。子どもが学校で見せている姿はほんの一部です。家庭での顔、友だちに見せている顔、どれが自分なのかわかっていない場合もありますし、自分を押しこらし、誰にも見せていない場合もあります。その子の背景を知ること、何を求めているのか、支援の方法や「ほめ時」、ほめると有効な観点等も見えてくることがあります。




学校を遅れてきた理由のわからない子どもに「遅いやないか」と怒る先生はいませんよね。それは、その子はずっと学校に来にくく、今日久しぶりに来られた子どもかもしれない。親が病気で朝起きてもらえず、自分で起き、家の用事をしてきた子どもかもしれないと考えられるからです。学校に来た子への一言目で、その子は「もう学校へ来るのはやめよう」と思うかもしれませんし、「また明日も学校へ来ようかな」と思うかもしれません。私は、「よう学校来たなあ。大丈夫か？教室までいっしょに行こうか」と声をかけるようにしていました。

周りにほめるのがとっても上手な先生がいらっしゃると思います。私もすごいなあと感心し、真似をしてみて失敗したり、こつを聞いても自分ではできなかったり、いろいろありました。私のように「ほめよう」と意識しないとほめられない先生もいらっしゃると思います。私は、子どもの本心からの笑顔が見られないなんて絶対損してきたなあと思っています。まだまだこれからです。先生方も、この「ほめ方改革」を機に、自分のほめ方を一度振り返り、自尊感情を高めるほめ方をしているのか、意識してみてください。

夏期研修講座から

今年も夏期研修講座を開催しましたところ、のべ902名の先生方に参加していただき、ありがとうございました。提出いただいた各講座のアンケートを参考に、今後も先生方の需要にお応えできる研修講座を企画したいと思います。

講座名	【人権教育講座1】 「子どもたちの今と未来のために、部落史に学ぶ ～近代に向けて科学と社会を切り拓いた人々～」	開催日	7月23日（火）
		人数	136名
講師	京都教育大学 名誉教授 外川 正明さん		
	<感想> ・「人はなぜ差別するのか」「どの時代にも差別をしなかった人がいた」大変印象的な言葉でした。 ・人権教育はまちがうかもしれない人間がまちがわないように共に悩みながらする教育ということが心にささりました。 ・無知や無自覚が差別をうむという言葉にハッとさせられました。伝えていく立場、教える立場にあるのだと、改めて感じました。		
講座名	【人権教育講座2】 「気づくこと わかること 変わること ～一人ひとりが幸せになるための人権同和教育～」	開催日	8月6日（火）
		人数	65名
講師	滋賀県人権センター 人権啓発担当 時岡 善也さん		
	<感想> ・知ること、見ること、気づくこと、とそして行動すること。自分自身の人権感覚をさらに磨いていきたい。 ・差別を知っていて「しない」と思っているだけではだめで、そこから「なくす」という次の段階へ進んでいくことが必要であるということを感じた。		
講座名	【道徳教育講座】 「考え議論する道徳の実現 ～道徳科と特別活動の両輪を効果的に駆動する道徳教育～」	開催日	7月29日（月）
		人数	75名
講師	京都市立松陽小学校 校長 前田 学さん 学校教育課 副参事 野瀬 めぐみさん		
	<感想> ・道徳の授業だけでなく、生活の中の体験や特別活動とあわせて取り組むことで、よりよい学びにつながっていくことがわかった。 ・特別活動・学級経営とのつながりも実感でき大変良かった。		

講座名	【生徒指導・教育相談講座】 「とにかく、記録をとりましょう～いじめ問題対応への法的にもとめられるいじめ防止手続きと記録の作成管理～」	開催日	7月23日(火)
		人数	92名
講師	長野総合法律事務所 弁護士 草津市学校問題サポートチームアドバイザー 峯本 耕治さん		
		<p><感想></p> <ul style="list-style-type: none"> 記録に残すことの必要性が大変よく分かりました。チームとして対応するために普段から職員間の人間関係をつくっておくことが重要だと感じた。 どのように対応していくべきか、今何をしておくべきか、今何をしておくべきかを明確に話していただきよかったです。 	
講座名	【英語教育講座】 「スタートしています。外国語科！ ～これからの方向性をふまえた授業づくりのポイント～」	開催日	7月31日(水)
		人数	36名
講師	大阪成蹊大学 准教授 赤沢 真世さん		
		<p><感想></p> <ul style="list-style-type: none"> 新しくスタートする外国語科に向けて、授業を作っていく上で、大切なことやパフォーマンス、課題、ループリックなどいろいろなことを学ぶ機会になった。 Phonics と whole language でどちらが良いのかということではなく、児童の気付きや「知りたい」に合わせて使っていきたい。 最初のアイスブレイクではアルファベットやアルファベットの音の指導で有効だなと思い、実際に使ってみてみたいと思った。 	
講座名	【特別支援教育講座】 「子ども達の理解と支援 ～子どもたちの本音をくみ取る～」	開催日	7月30日(火)
		人数	123名
講師	やまびこ教育相談室 アドバイザー 草津市特別支援教育 巡回相談員 井川 百々代さん		
		<p><感想></p> <ul style="list-style-type: none"> 特に大切だと感じたのは「チームで子どもたち一人ひとりに関わること」だと思った。その子の多面性を周りの大人が受け入れられる環境、その子への理解が必要だと感じた。 しんどいことを「がんばれ」というのではなく、「そうだね」と共感していきたい。 クラスの子を思い出しながら聞いていました。不器用なところが多くありますが、その子の良さをしっかり見つけることを今後も意識していきたい。 	

講座名	【学級経営講座】 『学級』から『学びに向かう学習集団』へ ～よい授業をすれば、よい学級が育つ?!～	開催日	8月5日(月)
		人数	42名
講師	滋賀県教育委員会 幼小中教育課 学ぶ力向上係 指導主事 森井 貴士さん		
		<感想>	<ul style="list-style-type: none"> 授業を少し工夫するだけで子どもが変わり、学級が変わることがよくわかった。 教師にとって大事な”授業力“を高めるためのたくさんの手立てを分かりやすく教えてもらった。
講座名	【学力向上講座】 「国語科における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくり ～目的意識を持った授業の実現に向けて～」	開催日	7月24日(水)
		人数	68名
講師	滋賀県総合教育センター 研修指導主事 北村 拓也さん		
		<感想>	<ul style="list-style-type: none"> 学びの可視化や「5W1H」を活用したためあての提示など、具体的な学習方法が印象に残りました。 授業の「デザイン力」をつけなければと痛感しています。自分が自信をもって子どもに授業できるようにしたい。
講座名	【体育実技講座】 「FIFA11+に救急処置をプラス ～スポーツ傷害予防運動は完璧ではない～」	開催日	7月29日(月)
		人数	18名
講師	立命館大学トレーナー室設置準備室(仮称)ディレクター 岡松 秀房さん		
		<感想>	<ul style="list-style-type: none"> けがをしてしまった場合の対処法などを学ぶことができたので、これからは生かしていきたい。 準備運動という発想はあっても、具体的にどの単元でどの部分をとということが小学校体育では曖昧になっていることがある。みんなで学ばねばならないことだと思った。
講座名	【くさつ教員塾1 ICT活用講座】 「タブレット PC を有効活用した草津型アクティブ・ラーニング、スクラッチなどを使ったプログラミング学習を体験」	開催日	7月30日(火)
		人数	89名 (1部2部合わせて)
講師	学校政策推進課 ICT教育スーパーバイザー 糠塚 一彦さん 専門員 名田 雅信さん		
	 	<感想>	<ul style="list-style-type: none"> 道徳、理科…あらゆる教科で使えるんだなと思いました。2学期にはぜひ活用したいと思います。 音楽は苦手な子でも演奏できるので、やる気や公平なスタートにつながりそうだった。

講座名	【くさつ教員塾2 幼児教育講座】 「学びの芽生えと自覚的な学びをつなぐ 保育・授業づくり」	開催日	8月5日(月)		
		人数	57名		
講師	岐阜聖徳学園大学 教授 西川 正晃さん				
		<感想> ・「遊びきる」ことが次の遊びに向かうエネルギーになるという話を受けて、子どもたちが遊びきって満足する前に担任の思いで活動を区切ってしまっていたなと反省した。 ・接続(連携)という部分で保・幼・こども園と小学校の先生とが一緒に学べる今回のような研修は大変良かった。			
講座名	【くさつ教員塾3 理科教育講座】 「身近な自然 滋賀県の川について知ろう ～草津川源流の自然観察～」	開催日	8月6日(火)		
		人数	22名		
講師	飯田 百合子 さん 矢倉小学校 教諭 蜂屋 正雄 さん 山田小学校 教諭 明山 晋也 さん 山田小学校 教諭 神田 健太 さん 玉川小学校 教諭 奥村 真也 さん 高穂中学校 教諭 大島 良太 さん 草津中学校 教諭 仁科 秀哉 さん				
		<感想> ・「直に触れる」ことの大切さを子どもにも伝えていきたいと思えます。 ・車で数十分の場所に、きれいな水にすむ水生生物が観察できる場所があると知ることができた。 ・草津川の源流を実際にみることでよかったです。水が冷たくてとてもきれいでした。ガイドブックを家でもう少し読んでみたいと思った。			
講座名	【研究発表大会】	開催日	8月1日(木)	人数	37名
発表者	①「小さな幼稚園の本気改革 ～アリはゾウになれるか～」 矢倉幼稚園 やぐらっこの会 笠縫東こども園 園長 中川 珠紀さん ②「国語科において正確に文章を読む力をつける授業づくり ～内容を正しくとらえ表現することができる子どもの育成～」 南笠東小学校30周年記念プラス1研究チーム 教諭 池田 和基さん ③「表現力を育てる数学科学習指導 ～電子黒板での発表を意識したノートづくりを通して～」 高穂中学校 教諭 今澤 宏太さん				



<感想>

- 多くの先生方がよりよい教育のためにご尽力されている話を聞き、自分もより意識的に教育していきたいと思った。
- 表現力と数学を結びつけられたところや、ノートを発表するためのもとととらえて取り組まれたところが新しいと思った。

講座名	【研究報告】 「子どものたちのプレゼンテーション力を伸ばす ～副読本「わたしたちの草津」を活用した授業実践 ～」 平成30年度教育研究所研究員 寺西 英里さん		
	【教育講演会】 「みんながつくる みんなの学校 大空小学校がめざしてきたこと ～すべての子どもの学習権を保障し、ともに学ぶために～」 大阪市立中野小学校 教頭 日野 善文さん		
開催日	8月1日(木)	人数	42名



<感想> **教育講演会**

- 教育者としてどのように子どもと接することが大切か考え直す良いきっかけとなった。「子どもたちのため」という思いでこれからも保育をしていきたい。
- 大空小学校の理念がとても素敵だった。特別支援学級の子どもが、他の子たちと同じ一人の人として学習、生活していることは素晴らしいと思った。

自己啓発講座について

回	講座名	講師	日時	場所
1	図画工作(美術)科における指導について	山田 和美 さん (老上小学校 教諭)	9月13日(金) 15:50~16:50	教育研究所 研修室1
2	プログラミング教育 (仮)君だけのクムクムを育てよう	佐々木 昭彦 さん (びわこ企画合同会社 代表社員)	10月4日(金) 15:50~16:50	教育研究所 研修室1
3	体育科における指導について	山田 淳子 さん (老上西小学校 教諭)	11月8日(金) 15:50~16:50	老上西小学校 体育館
4	ICT教育 (仮)ミライシード活用法について	ベネッセ ICTサポーター	未定 (15:50~16:50予定)	未定

本年度は勤務時間内に開催します。

別途各校に詳細を載せたチラシを配布しますので、教育研究所にFAX(563-0117)でお申し込みください。

たくさんの御参加お待ちしております!

草津市教職員自己啓発講座

草津市立教育研究所

第1回

秋の作品展に向けて4 ～いきいきとした表現へ導くために～

9月13日（金） 講師：老上小学校教諭 山田 和美 さん

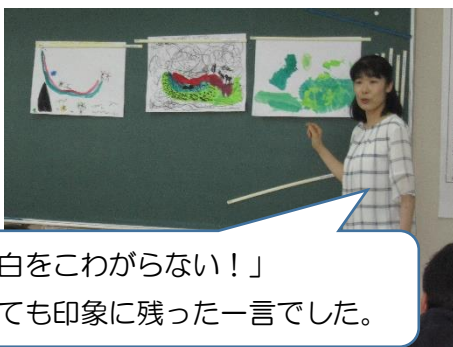
作品づくりで大事な3つのポイントとは？

みなさんは、何が大事だと思いますか？構図？色使い？技法？

どれも大切なことだと思います。しかし、「子どもたちがいきいきと表現する」ために教師が大切にしたいことは、

- ①絵の中心は何か ②周りの様子 ③（学年が上がれば）時刻

です。子どもたちの表現欲求を満たすための効果的な声かけや指導方法を具体的に教えていただきました。これからの作品作りの参考になる、あっという間1時間でした。



「白をこわがらない！」
とても印象に残った一言でした。



制作中の作品を持ち寄り、
悩みや疑問を出し合いました。
山田先生は、制作している
子どもの姿を思い描きながら、
一つ一つ、丁寧に答えてく
ださいました。

参加者の感想

- 作品の見方や声掛けの視点がよく分かった。子どもの思いを聞きながら作りたい。
- 自分の学級で今描いている絵について、今後どのような指導をしていけばいいのか悩んでいた部分のヒントが見つかった。また、保幼こども園～小学校高学年までのそれぞれの学年の作品を見て、発達段階に合った道具や技法の違いについて学ぶことができ、今後の授業に活かせそうだった。
- 画材や道具の使い分けを考えると、中心をしっかりと映えさせるためにはどう使い分ければいいのか、組み合わせはどうか、今回の研修で大きなヒントをいただきました。

講座終了後には、山田先生の指導を聞くため、作品を手にした先生たちの長蛇の列が！平面作品だけでなく、立体作品についても、細かいアドバイスがもらえました。



草津型アクティブ・ラーニングを学ぶ <スキルアップ夏季支援講座>



ICT 支援員さんによるムーブノート機能と「話型」の説明

スキルアップ支援夏季講座を、志津小学校を会場に7月25日の午後と26日の終日、また、玉川中学校を会場に8月2日の午前に実施しました。会場をご提供いただきありがとうございました。

小学校では、前半に ICT 支援員さんによるムーブノートの機能と発問の質を高める「話型」についての研修、ICT 教育スーパーバイザー (ICTSV) である糠塚氏による草津型アクティブ・ラーニングの進め方についての研修をしました。後半ではグループごとにムーブノート等を活用した教材作成を行いました。短時間にもかかわらず様々な工夫された ICT 教材の発表が見られました。中学校でも、「話型」を意識することの大切さや、タブレット活用の基本等について研修しました。参加者からは、下記のように前向きな感想をたくさんいただき、充実した研修となりました。



糠塚 ICTSV による草津型アクティブ・ラーニングの進め方

参加者の感想

話型を使うと子どもの思考がより深まりそうだと感じました。発表する際や考える際に提示して学習を進めていきたいです。

草津型アクティブ・ラーニングについて、改めてお話を聞いたことで、2学期の授業でもこの考え方でやっていこうと思うことができた。



作成した ICT 教材の発表

学習課題と本時のまとめのつながりを意識することや、子どもたちの考え方をより深い学びにすることの大切さについても教えていただきました。

「表現→思考」という話型を使って、発問することが深い学びにつながっていくということが実感できました。



タブレット活用について学ぶ

ICT だけでなく、授業の発問の工夫の仕方も考えることができ、良かったです。発問を1つ変えるだけで答える内容が少しどころか大きく変化するのだなと思いました。今後の授業にどんどん取り入れていきます。

思考力を育むために表現の仕方を設定するという方法があると知り目からうろこだった。

ICT を実際に使って授業を考えることができ、具体的なイメージを持つことができました。

あらためて、ミライシードやオクリンクの使い方・使い道を教えていただくことができ、とてもありがたかったです。

同じ学年部の先生と話ができてとても勉強になりました。



やまびこだより



音の出る焼き物を作ろう！！

9月5日(木)陶芸の森の陶芸家に来ていただいて『音の出る焼き物』を作りました。

今年は小学生の参加が多く、自分の作りたいものをイメージして、形にすることができるか少し心配していましたが、私たちの心配をよそに個性豊かな作品が出来上がりました。11月の展覧会に展示する予定ですので、ぜひ見に来てください。



やまびこ 秋の展覧会 ♪



日時：11月18日(月)～11月25日(月) ※土、日を除く

(11/25は午前中まで)

場所：教育研究所 研修室

子ども達のすてきな作品が並びます。どうかご覧になって、芸術の秋を楽しんでください♪

まずは安心できる空間を！やまびこ教育相談室へ

不登校の子どもたちは、みんな、行けるものなら学校に行きたいと思っています。登校出来ない自分に対して罪悪感をもち、自己嫌悪にさいなまれている子どもがほとんどです。まずは重圧感を取り除いてあげることが先決だと思います。やまびこ教育相談では、子どもたちの面談やプレイセラピーを実施しています。相談員は、子どもが自分の思いを表出できるように信頼関係を構築し、安心できる空間づくりに努めています。不登校や不登校傾向の子どもたちや保護者の方々にやまびこ教育相談室をご紹介ください。先生方からのご相談もお待ちしています。

シリーズ 司書さんおすすめの絵本



「おきゃく、おことわり？」

(ボニー・ベッカー文 ケイティ・マクドナルド・テントン絵 横山和江訳・岩崎書店)

クマは、家にお客さんが来るのが好きではありません。ところがある日、一匹のネズミがたずねてきたから、もうたいへん。追い返しても追い返しても、ネズミは何度もやってきます。困り果てたクマは、ある作戦を思いつきます。

あの手この手で追い出そうとするクマと、それにめげないネズミの激しい攻防戦の結末はどうなるのでしょうか。

かたくななクマと人なつこいネズミ、正反対などちらの気持ちにも寄り添ったあたたかな視線を感じる作品です。



「だいじょうぶだいじょうぶ」(いとうひろし作絵・講談社)

ぼくがこまったことやこわいことに出会うたび、おじいちゃんはぼくの手をにぎり「だいじょうぶだいじょうぶ」とおまじないのようにつぶやいてくれました。おじいちゃんのおまじないがぼくに教えてくれたのは「この世の中、そんなに悪いことばかりじゃない」ということでした。

「だいじょうぶだいじょうぶ」というおじいちゃんの言葉は、そのまま読者のおまじないにもなってくれそうな、しなやかな強さや優しさを備えています。



「おかえし」(村山桂子作 織茂恭子絵・福音館書店)

あるひ、たぬきの家の隣へ引っ越してきたきつねは、たぬきに苳をあげました。すると、たぬきはおかえしに苳をくれました。おかえしのおかえしにきつねが花と花瓶をあげると、おかえしのおかえしのおかえしにたぬきが絵と壺をくれました。

おくりあう物のスケールがどんどん大きくなっていくおかえし合戦には、思わず笑いがこみ上げてきます。一見なんとも滑稽なやりとりですが、たぬきときつねの相手を喜ばせたいという純粋な気持ちが伝わってきて、心が和みます。



読み聞かせにご活用を